



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

平和の壁、攻撃される

日本人アーティストの壁画、砲撃で損壊 マリウポリで市民と共作
【2022 年月 4 日】



ロシアによる激しい侵攻を受けるウクライナ南東部のマリウポリで、日本人アーティストのミヤザキケンスケさんが市民と共に平和を願って作り上げた壁画が砲弾を撃ち込まれた。現地に住む友人が、町を脱出する直前、損壊した壁画の写真を撮影して送ってくれたという。

ミヤザキさんは 2017 年夏、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の協力でマリウポリに 3 週間滞在し、市郊外の学校にある 11 メートル四方の壁に、市民と共に絵を描いた。モチーフは、雪の降る寒い日に手袋の中に身を寄せ合う動物たちを描いたウクライナの民話「てぶくろ」。さまざまな民族衣装を身にまとった人たちが大きな手袋に身を寄せる様子を描き「平和の象徴」として市民に愛されていた。

ミヤザキさんは「写真を見た瞬間はショックだった」と語る。一方で「わざわざ危険をおかしてまで写真を撮ってくれた」と友人の気遣いをうれしく感じたという。

写真によると、壁画には砲撃による穴が 3 カ所ある。壁の一部が崩れ落ちているが、崩壊は免れた。「さまざまな人を描いた『てぶくろ』の部分には一発も当たっていなかった」とミヤザキさんは胸をなでおろした。

ミヤザキさんがこれまで国内外に残してきた壁画作品にはその後の「ストーリー」がある。例えば、06 年にケニアのスラム街にある小学校に描いた壁画。児童の急増に伴い増築された校舎の壁に、現地を再訪したミヤザキさんと児童らが新たな絵を描き、暮らしぶりの変化が物語として紡がれているという。

マリウポリの壁画の一部には、14 年にロシアがウクライナ東部に侵攻した際の戦闘で弾痕が残った。今回、再び傷つけられ、苦難の物語が続く。だがミヤザキさんは、壁画には新たな希望のストーリーがあると信じている。「市民ともう一度集まって壁画を描き直し、戦乱を生き抜いた平和の象徴としてのストーリーを作り上げたい。完全に壊れてしまっても、もう一度別の場所で意志を引き継ぎたい」



ミヤザキケンスケさんがマリウポリ市民らと創作した「てぶくろ」の壁画 2017年3月



砲撃を受けて壁の一部が崩れ落ちている 2022年4月



銀座で開かれたミヤザキケンスケさんの個展にて 2022年4月



KOMABA でもミヤザキケンスケさんのプロジェクトをサポートしている

「共存と平和の象徴」が攻撃される程、戦争がいかに非情であるかを物語っています。特に、この壁画があるマリウポリでの戦況はさらに苛烈さを増し、ウクライナのゼレンスキー大統領は「今残っているのはわずかばかりの芝生と建造物の残骸だけだ」と言葉を残しています。

しかし、この不条理な戦争がいつまで続くのかわからない中、ミヤザキケンスケさんは画家として新たな平和へのストーリーを紡ぐ決意をしています。KOMABAでは、ミヤザキさんのような大人たちの気持ちや希望を、ひとりでも多くの子供たちに伝えることを一つの目標にしています。そして子供たちが成長し大人になったとき、同じように子供たちに希望の種を与えてくれるようになればこの上ない幸せだと思っています。

(北山)